

「災害特派員」は何を伝えてきたか ～これまでの10年、これからの10年～

平成 23 (2011) 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災。10 年が経過したいま、記憶と経験の風化をどう防ぐかという問題が指摘されています。大規模災害はひとたび発生すると、多くの人命を危険にさらし、避難に際して、またその後の復興のプロセスにおいても様々な人権上の問題を派生させます。こうした問題を防ぐためにも、私たちは過去の災害を忘れず、そこから多くを学ぶ必要があります。そこで、東日本大震災の際に津波による被害が甚大であった場所の一つ、宮城県の南三陸町に派遣され、およそ 1 年間にわたり現地に滞在して取材活動を続けた新聞記者の方を講師として、災害と人権について考える講座を企画しました。

震災により家族やそれまでの生活、働く場を失った人々の声を、東北の被災地に身を置きながら伝えてきた講師に、これまで感じてきた思いとともに、10 年の節目に合わせてお話しいただきます。災害の記憶と教訓をどのように伝え残していくべきか、参加者一人ひとりが考える手がかりとしてもらいたいと思います。



講師：三浦英之（みうら・ひでゆき）さん
朝日新聞記者・ルポライター

1974 年神奈川県生まれ。東日本大震災発生翌日に被災地に入り、18 日間被災地を歩き記事を配信。その後、大手新聞社としては異例の現地駐在員（「南三陸駐在」）として宮城県南三陸町に赴任し、約 1 年間、現地の人々と生活を共にした。ジャーナリストとしては、日中戦争の最中、旧満州に存在した最高学府「満州建国大学」の卒業生たちの戦後を追った『五色の虹』（2015）で開高健ノンフィクション賞を受賞。また、被災地取材の記事をまとめた『南三陸日記』（2013）で平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞。新刊に『白い土地』（2020）、『災害特派員』（2021）など。

都民講座フォローアップ企画 大規模災害に関する書籍展示

東京都人権プラザ ロビーギャラリーにて



2021.4.17
～
2021.4.30
9:30 - 17:30
日曜 休館

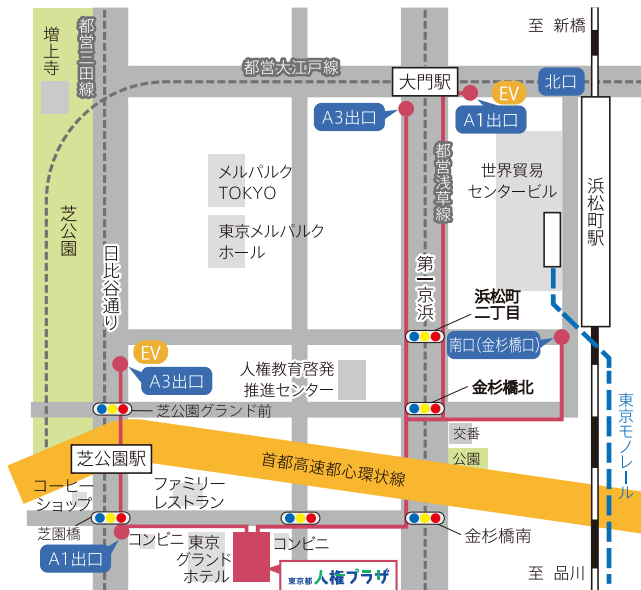
東京都人権プラザ図書資料室所蔵資料を中心に、東日本大震災をはじめとする、近年の大規模災害に関する図書・写真集・絵本やDVD等をご紹介します。

中継会場案内

- 都営三田線
「芝公園駅」A1 出口
から徒歩 3 分
- 都営浅草線・
都営大江戸線
「大門駅」A3 出口
から徒歩 7 分
- JR 線・
東京モノレール
「浜松町駅」金杉橋口
から徒歩 8 分



地図ページ
QRコード



お申し込み・お問い合わせは

電話 03-6722-0123

Eメール fukyu3101@tokyo-jinken.or.jp

FAX 申込フォーム

・応募者多数の場合は抽選となります。
・ご提供いただいた個人情報は、申込手続き以外使用しません。

FAX 03-6722-0084

①お名前（代表者）	フリガナ	参加人数	名
②ご連絡先 (オンライン参加をご希望の方は、 メールアドレスを必ずご記入く ださい。)	電話	FAX	
	メール	@	
③受講票送付先（会場参加希望者のみ）	〒	⑤参加方法	オンライン・中継会場 (どちらかに○を付けてください)
④ 託児(無料・会場参加希望者のみ) 障害等による必要な配慮	有・無	(内容)	

・ご来館の際は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策にご協力いただきますようお願いいたします。詳細は東京都人権プラザホームページでご確認ください。
・オンラインでご参加いただく方には、開催前日までに招待 URL をメールでお送りします。フリーメールをご使用の方は、迷惑メールフォルダに振り分けられる場合がございますので、ご注意ください。